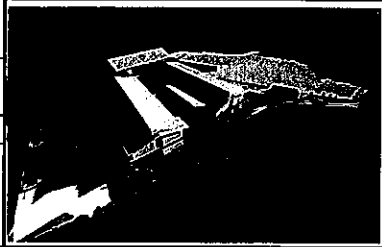


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 評価版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDG(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	亀岡市立育翠学園	階数	地上2F
建設地	京都府亀岡市	構造	木造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	320人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,600時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2024年7月22日
敷地面積	26,779 m ²	作成者	アール・アイ・エー 福田純一
建築面積	3,984 m ²	確認日	2024年7月22日
延床面積	6,673 m ²	確認者	アール・アイ・エー 菊池憲一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>① 参照値 100%</p> <p>② 建築物の取組み 83%</p> <p>③ 上記+②以外の 80%</p> <p>④ 上記+ 80%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建築(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1 のスコア = 3.4</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2 のスコア = 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3 のスコア = 3.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1 のスコア = 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2 のスコア = 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3 のスコア = 3.2</p>

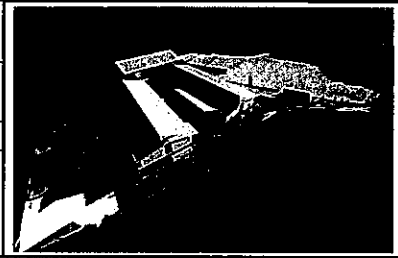
3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>本計画は、京都府亀岡市に位置する義務教育学校であり、木造+RC造といったハイブリッドな構造計画に加え、見える触れる場所への地元産材の木材の活用や京都府内産材の活用などを積極的に行った計画である。また、設計コンセプトとしてコミュニケーションコアと名付けた児童・生徒と地元住民が活発な交流を行える核を施設内に設け、地域の公民館のように地区コミュニティ形成を促す施設として計画した。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>快適な室内環境を確保できるよう配慮した計画した。内部空間は自然光を十分確保できる様計画し、児童・生徒が常日頃から生活する教室や特別教室には全熱交換器を設置する等、省エネに配慮しつつ内装材料にはF☆☆☆☆を採用するなど空気環境に配慮した計画とする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>公共性の高い建築物であることから、ユニバーサルデザインに配慮した快適な空間を提供できるよう計画した。京都府福祉のまちづくり条例より、特別特定建築物に該当することからより一層のバリアフリー計画となるよう計画している。耐用性・耐震性については鉄筋コンクリート構造と木造のハイブリッド構造としており、各構造の長所を生かした粘り強い構造計画としており、児童・生徒のみならず管理運営のため訪客を誘致し維持管理計画にも配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>和田山と呼ばれる小山の上に位置することから、周囲から見るとシンボリックな建物となりつつ豊かな景観になじむように計画した。亀岡市の景観条例一般地区に該当することから、主要な外観構成部材は景観配慮色を核対し、敷地内には地域の花を植樹するなど室外環境を豊かにする外構計画としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>ZEB-Readyの取得を目指し、Low-Eガラスの採用や熱負荷の少ない空調機器の選定・LED照明の採用や高性能グラスウールの設置など省エネルギーに配慮した。太陽光パネルの設置により220840メガジュール確保するなど再生可能エネルギーの導入を行い、脱炭素社会の実現に寄</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>断水型の設備の設置や透水性舗装・雨水貯留タンクによる雨水利用など資源を有効活用できるような計画としている。建築物内部には亀岡市内産材や京都府内産材を活用し地域資源の活用を促進した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>義務対象外の防火水権の計画等、敷地外の火災予防へも配慮をした。本計画に合わせて周辺樹木の活用や、通学路の再整備など良好な計画が見込まれている。</p>
<p>その他</p> <p>地域産材として地元住民が建設のために育てた学校林の利用等、地産地消となる施設計画としている。</p>		

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_運用編 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDG4(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	亀岡市立育観学園	階数	地上2F
建設地	京都府亀岡市	構造	木造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	320人
地域区分	S地域	年間使用時間	2,600時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2024年7月22日
敷地面積	26,779 m ²	作成者	アール・アイ・エー 福田純一
建築面積	3,984 m ²	確認日	2024年7月22日
延床面積	6,673 m ²	確認者	アール・アイ・エー 菊池憲一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 83%

③上記②以外のオンサイト手法 60%

④上記④オフサイト手法 80%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保値) 2.5

4(教育) 1.4

5(エンダー) 2.0

6(水・衛生) 2.1

7(エネルギー) 2.0

8(経済・雇用) 1.8

9(インフラ) 1.5

11(都市) 1.8

12(生産・消費) 2.1

13(気候変動) 2.0

15(陸上資源) 1.4

17(実施手段) 2.2

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合

本計画は、京都府亀岡市に位置する義務教育学校であり、木造+RC造といったハイブリッドな構造計画に加え、見られる場所への地元産材の木材の活用や京都府内産材の活用などを積極的に行った計画である。また、設計コンセプトとしてコミュニケーションコアと名付けた児童・生徒と地元住民が活発な交流を行える核を施設内に設け、地域の公民館のように地区コミュニティ形成を促す施設として計画した。

その他

地域産材として地元住民が建設のために育てた学校林の利用等、地産地消となる施設計画としている。

Q1 室内環境

快適な室内環境を確保できるように配慮し計画した。内部空間は自然光を十分確保できる採計画し、児童・生徒が常日頃から生活する教室や特別教室には全熱交換器を設置する等、省エネに配慮しつつ内装材料にはF☆☆☆☆

Q2 サービス性能

公共性の高い建築物であることから、ユニバーサルデザインに配慮した快適な空間を提供できるように計画した。京都府福祉のまちづくり条例より、特別特定建築物に該当することからより一層のバリアフリー計画となるよう計画して

Q3 室外環境(敷地内)

和田山と呼ばれる小山の上に位置することから、周囲から見えるシンボリックな建物となりつつ豊かな景観になじむように計画した。亀岡市の景観条例一般地区に該当することから、主要な外観構成部材は景観配慮色を検討

LR1 エネルギー

ZEB-Readyの取得を目指し、Low-Eガラスの採用や熱負荷の少ない空調機器の選定・LED照明の採用や高性能ガラスウールの設置など省エネルギーに配慮した。太陽光パネルの設置により220840メガジュール確保するなど再生可能エネルギーの導入を行い、脱炭素社会の実現に

LR2 資源・マテリアル

節水型の設備の設置や透水性舗装・雨水貯留タンクによる雨水利用など資源を有効活用できるような計画としている。建築物内部には亀岡市内産材や京都府内産木材を活用し地域資源の活用を促進した。

LR3 敷地外環境

義務対象外の防火水槽の計画等、敷地外の火災予防へも配慮をした。本計画に合わせて周辺樹林の活用や、通学路の再整備など良好な計画が見込まれている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される